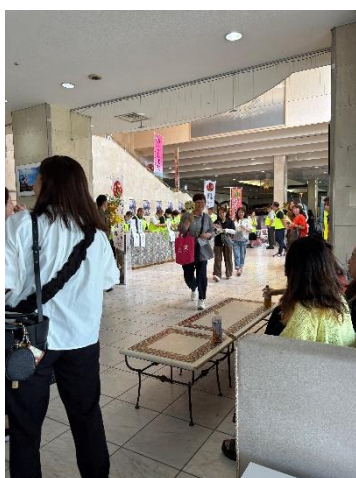


全国牛飼い女子サミットに参加させてもらって

こんにちは、授精師の福島です

6月中旬、「全国牛飼い女子サミット・全国モーモー母ちゃんの集い」という酪農家や和牛農家の母ちゃんが集まり、情報交換や日々のあれこれを話し、畜産業を盛り上げていこうという元気の出る集まりに参加させていただきました。

今回の会場は鹿児島県鹿屋市。私は初参加でしたが、大会の開催は12回目、2日間にかけて開催され、参加者は全国から集まり、顔見知りやSNSなどで連絡を取り合っていた方々で盛り上がっていました。



再会を喜ぶ声があちらこちらで聞こえました



桜島

ここで大会の経緯を説明させていただきますと、第1回が開催されたのは今から25年前の平成12年、当時子牛価格が低迷し、肉用牛繁殖農家の経営状況は決して良いものではなく、みんなが落ちこみ、苦しんでいる中、この状況を打破するために「何とかしたい」「奮い立たなくては」と兵庫県淡路島の繁殖農家の母ちゃん、女性獣医師が中心となり「牛飼い母ちゃんたちの思いを吐き出せる場所を作ろう」と全国の仲間たちに声をかけ淡路島にて第1回が開催されました。参加者からは次回開催の要望が多く上がったことから、2年に1度、全国持ち回りで開催されるイベントとなったそうです。

これまでの開催地は兵庫県（2回）、宮城県（2回）、島根県（2回）、青森県、沖縄県、岩手県、宮崎県、秋田県、今回の鹿児島県とさまざま。

これが、次回開催がその場で「やります！」と挙手で決まることに驚きました。何もないところから開催地は手探りで、協力してくれる事務局や行政、支援団体探しを自分たちでしなければならないという大変な作業があるそうですが、それでも自分たちで開催させるために奮闘する母ちゃんたちの力強さを感じました。

1 日目は母ちゃんの体験発表、和牛専門のコンサルタントで獣医師の基調講演、自分たちの思いを伝える 1 分間のスピーチなどを行いました。

1 分間スピーチでは「みんなでつなごう 1 分間スピーチ！」と銘打ってスピーチをしたい母ちゃんが思い思いに壇上に上がり、1 分間計ってもらいながら自分のことや、家族のこと、牛のことなど熱いメッセージを送っていました

自分の県、地域、自分の家の牛に対する思い入れがとても強く、自分たちのブランドについて自信をもって話していました。今回の大会は和牛農家さんが多く参加されていたのですが、「いかに良い肉にして出荷するか。また、和牛はその短い命の中で最後までいかに幸せな牛生を過ごさせてあげられるかをいつも考えている」というスピーチがとても印象的でした。

懇親会の時間が迫る中、1 分間スピーチをしたい母ちゃんたちで長蛇の列ができ、笑いあり、笑いあり、熱い気持ちも受け取りながら 1 日目を終わりました。

2 日目は鹿屋市観光と市場見学とで別れ、私は市場見学の方へ参加させていただきました。場所は肝属家畜市場。県の職員さんの説明でセリの見学

肝属家畜市場では 2 市 4 町（鹿屋市、垂水市、東串良町、肝付町、錦江町、南大隅町）から子牛が取引され、毎月 3 日間和牛の子牛のセリ市が開催されます。

R 6 年度の年間出場頭数が約 15,000 頭で市場出場頭数は県内 2 位で、この市場は第 2 0 平茂を輩出した場所でもあります。「若百合」「安亀忠」、「源茂勝」「姫之桜」などの地域種雄牛の産子が多いとのことでした。



6 月中旬で梅雨時期ではありましたが、天気にも恵まれ気温は 3 2℃ほどで、湿度はありましたが北海道も 3 0℃超えの日が続いていた時期でもあったので、自分でもびっくりするほど体は順応していました。

今回お知り合いになった鹿屋市の和牛農家さんからは、この大会の 1 週間後、「梅雨が明けました！」と連絡をいただき、本格的な夏の到来だそうです・・・。

次回の開催は 2 年後、北海道開催です。

今回のご縁でお知り合いになれた母ちゃんたちの気持ちはもう北海道に向かっていました。また近くなりましたら、「第 1 3 回・全国牛飼いサミット モーモー母ちゃんの集い」の案内をさせていただけたらと思います。